

## 福岡県 北九州・豊前圏域 総合水産基盤整備事業計画

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

###### 市町村

・北九州市	人口：939,029人	漁業経営体数：415経営体	従事者数：586人
・苅田町	人口：71,426人	漁業経営体数：30経営体	従事者数：59人
・行橋市	人口：24,391人	漁業経営体数：118経営体	従事者数：152人
・築上町	人口：13,545人	漁業経営体数：14経営体	従事者数：36人
・豊前市	人口：31,007人	漁業経営体数：59経営体	従事者数：69人
・吉富町	人口：37,684人	漁業経営体数：41経営体	従事者数：53人
・芦屋町	人口：6,536人	漁業経営体数：46経営体	従事者数：59人
・岡垣町	人口：17,189人	漁業経営体数：13経営体	従事者数：一人 <sup>*</sup>

(令和2年国勢調査・2018年漁業センサス)

※岡垣町の従事者数は明示なし

###### 漁業協同組合

###### ・遠賀漁協

本所（波津）、芦屋支所、柏原支所

組合員数：75名（正：58名、准：17名）

###### ・ひびき灘漁協

本所（脇田）、岩屋支所、藍島支所

組合員数：170名（正：119名、准：51名）

###### ・北九州市漁協

本所（脇之浦）、長浜支所、若松支所、平松支所、馬島支所、大里支所、  
旧門司支所

組合員数：222名（正：213名、准：9名）

###### ・豊前海北部漁協

本所（柄杓田）、恒見支所、田野浦支所

組合員数：107名（正：96名、准：11名）

###### ・北九州東部漁協

本所（吉田）、今津支所

組合員数：33名（正：27名、准：6名）

- ・曾根漁協  
組合員数：34名（正：31名、准：3名）
- ・荻田町漁協  
組合員数：45名（正：42名、准：3名）
- ・蓑島漁協  
組合員数：119名（正：93名、准：26名）
- ・行橋市漁協  
本所（沓尾）、稲童支所、長井支所  
組合員数：144名（正：122名、准：22名）
- ・豊築漁協  
本所（宇島）、西八田支所、椎田町支所、松江浦支所、八屋支所  
組合員数：162名（正：112名、准：50名）
- ・吉富漁協  
組合員数：71名（正：71名、准：0名）  
(福岡県農林水産業・農山漁村の動向 ー令和2年度農林水産白書ー)

## ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

- ・主に小型底びき網、つぼ、さし網などの漁船漁業ではタコ、イカ、エビ類。磯場ではアワビ、サザエ、海藻類などが漁獲され、その総漁獲量は6,743トン。
- ・漁業種類別漁獲量：小型底びき網701トン、その他刺し網529トン、その他釣り470トン、小型定置網159トン、はえ縄102トン、船びき網218トン、ひき縄釣り365トン、沿岸いか釣り130トン、採貝・採藻396トン、その他1,386トン。
- ・魚種別漁獲量：タコ類802トン、その他のイカ類470トン、エビ類150トン、ブリ類155トン、アジ類135トン、ヒラメ・カレイ類172トン、ガザミ類171トン、海藻類295トン、アワビ・サザエ121トン、その他1,985トン。また海面養殖としてカキ及びノリ養殖が営まれており、1,378トン（カキ：1,315トン、ノリ：64トン）。

(第66次九州農林水産統計年報、福岡県調べ)

## ③ 水産物の流通・加工の状況

- ・各漁港で陸揚げを行い、その日の価格に応じて、陸路にて北九州市公設地方卸売市場及び行橋市魚市場、中津魚市場（大分県）等に出荷している。あわせて、地元の直売所や朝市でも販売している。後背人口が少ない地域では、宅配によるカキやカニ等の直接販売が行われている。

#### ④ 養殖業の状況

- ・北九州市、苅田町等でカキ養殖が盛んであり、北九州市で 45、行橋市で 3、豊前市で 4、苅田町で 13、築上町で 1 の経営体がカキ養殖を営んでいる。
- ・生産したカキの大半は殻つきのまま直売所、または宅配により販売しており、一部は焼きガキとしてカキ小屋等で提供されている。
- ・生産量はおよそ 1,300～1,600 トン、生産額 8～12 億円で推移しており、圏域でも重要な産業となっている。

#### ⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

- ・736 経営体 漁業就業者 1,014 人（2018 年漁業センサス）

#### ⑥ 水産業の発展のための取組

- ・漁場環境の保全や漁場の造成といった漁場づくりを進める一方で、水産資源の持続的な利用の観点から、小型魚や抱卵ガザミの再放流、網目拡大、休漁日の設定等の資源管理（令和 3 年 6 月現在、資源管理計画の策定数 9 件）に取組み、あわせて、クルマエビ、ヨシエビ、ガザミ等の種苗放流を積極的に行い、資源づくりにも努めている。
- ・カキ養殖については、県内最大の産地であり、漁港での直売の他、宅配によって全国に出荷されている。また、法に基づいた「漁場改善計画」を策定し、持続的な養殖生産に努めている。
- ・また、近年漁獲が低迷しているアサリについては、県が開発したアサリ増殖装置「かぐや装置」によって、資源増殖の取り組みを実施している。
- ・当該地区でとれる良質な水産物を選定して「豊前海一粒かき」「豊前本ガニ」「関門海峡たこ」などブランド化を推進している。
- ・また、直売所において、地元で水揚げされる市場流通に適さない多種多様な小ロット魚種や低価格魚種の販売や、料理による提供を行い、漁家所得向上を図っている。

#### ⑦ 水産基盤整備に関する課題

（漁港整備）

- ・拠点漁港において、耐震耐津波の機能診断により安定性を満足していない施設について、対策工事を実施することが必要である。
- ・気象変動に伴い頻発化・激甚化している台風・低気圧災害に対し、高潮対策を実施することが必要である。
- ・漁港の外郭施設等基本施設の整備は概ね完了しており、引き続き施設の機能保全を適切に実施することが必要である。

(漁場整備)

- ・水産生物の生活史に対応した沿岸から沖合までを一体とした広域的な漁場整備が求められる。特に沿岸の産卵場、稚魚育成環境の改善、稚魚の滞留場の造成等によって海域全体の生産力向上が必要である。
- ・近年、小規模ながら沿岸域にガラモ場を主体とした藻場が分布しており、漁場環境の改善に資する藻場の保全や増殖場の造成が必要である。
- ・また、豊前海域では水産生物の生活史が複数県に跨がっていることから、関係県が連携して漁場整備に取り組む必要がある。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

- ・漁村の人口減少や高齢化に伴う漁港施設の統廃合や廃止、同一漁港内での機能再編については、必要に応じ検討してゆく。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由； 沿海部の天然資源を活用し、豊前海一粒かき、豊前本ガニ、関門海峡たこなどの地域ブランドの取り組みを行い、供給の強化を行っている。
② 圏域範囲	筑前海東部および豊前海の範囲	設定理由； 地域ブランド等共通の取り組みを行っている範囲で形成した。
③ 流通拠点漁港	該当なし	設定理由；
④ 生産拠点漁港	沓尾漁港 蓑島漁港 宇島漁港	設定理由； ・一定の港勢を有しており条件を満たす。

	藍島漁港	杵尾：行橋漁協の本所があり、小型底びき網漁業を中心とし行橋市場に陸送する中核的な漁港である。 蓑島：背後に行橋市場を持ち、ヨシエビ等の中間育成施設があり、カキ養殖が盛んな栽培漁業の拠点である。 宇島：豊築漁協の本所があり、豊前海南部の中心的な漁港であり、近隣市町の漁港から水産物の集約を図っている。 藍島：良好な漁場を周囲に持ち、刺し網、採貝等を北九州市中央卸売市場に陸揚げを行う中核的な漁港である。
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	4,123	圏域の登録漁船隻数(隻)	849
圏域の総漁港数	22	圏域内での輸出取扱量(トン)	—
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	—		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	北九州・豊前圏域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	カキ類
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(トン)	1,022
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	800

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・水産業の成長産業化に向け、産地における水産物の価格形成力の向上と生産・流通コストの縮減を図るため、圏域における漁港の集出荷機能等の再編・集約の更なる強化が必要である。

#### ② 養殖生産拠点の形成

- ・東日本大震災後、種ガキの供給地である宮城県での採苗等の不安定化、秋季の高水温に伴う身入りの遅れ、魚類による食害等の問題が生じており、生産の安定化が課題である。
- ・そのため、他県からの健全な種苗の調達を図るとともに、リスク分散のために自県での採苗を検討、実施する。漁場改善計画に基づく環境監視や養殖密度などの管理を徹底するとともに、成長、身入りの早期化、食害防止に関する取り組みを検討、実施し、生産の向上、安定に資する。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・筑前海区では近年、夏季の高水温による大型藻類の枯死が散見されることに加え、アイゴやムラサキウニ、ガンガゼ等の食植生動物による藻類に対する食害が増加しており、藻場の衰退が懸念されている。
- ・そのため、既存漁場周辺において、投石による藻場造成を実施、併せて磯根資源の種苗放流を強化することによって、クロアワビやアカウニ等の有用水産資源の資源量の維持、増大を図る。
- ・一方で豊前海区では透明度が上昇していることから、補償深度が深くなっており、これまで藻場のなかった海域で小規模な藻場の発生が認められるようになってきている。そのため、投石により海藻の着定基質を整備し、藻場の拡大を図る。
- ・また、近年頻発する集中豪雨により、干潟や干潟に連続する水域では泥土化が著しいため、その周辺海域の底質改善を図る。
- ・さらに、暖水性であり、近年増加傾向のキジハタ等について、種苗放流を実施することで資源増大を図り、新たな重要水産魚種としての活用を勧める。
- ・県水産海洋技術センター及び豊前海研究所では、毎月1回、筑前海区19点、豊前海区12点における水質環境調査を実施し、海域環境の変動を把握している。また、漁協及び市場からの出荷情報や操業日誌による漁獲情報を集計し、漁獲対象種の変化の把握に努めている。さらに夏季の高水温等のイベント発生時には、必要に応じて潜水調査等を実施し、漁場環境の把握に努めている。

## ②災害リスクへの対応力強化

- ・地震、津波等の自然災害に対する漁港及び背後集落の安全確保のため、拠点漁港である宇島漁港、藍島漁港において、耐震耐津波の機能診断により安定性を満足しない施設について対策工事を実施するとともに、他の拠点漁港へ推進する。
- ・台風・低気圧災害の頻発化・激甚化に対し、高潮対策を推進する。
- ・漁港施設等の機能保全計画に基づく予防保全型の老朽化対策を実施する。

## (3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

### ①「海業」による漁村の活性化

- ・地元で漁獲、生産される、多様で新鮮な海産物を販売する直販施設の活用を一層進める。先駆的事例として、豊前海南部地域では従来より、女性部による一次加工や量販店、直売所での販売が行われていたが、豊築漁協では平成 21 年度より漁協直営の食堂及び直売所を開設した。平成 28 年度にはこれらの個々の施設を統合し豊前地域初の直売所と漁師食堂を併設した大規模施設「うみてらす豊前」を開業し、より積極的な直接販売を開始した。
- ・このような事例を、今後は圏域全体に拡大し、地域の活性化、魚価の向上、さらには就業機会の増加を図っていく。

### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・漁協女性部では、これまで未利用資源であったアカモクの加工に着手し、新たな商材として価値を見出し、船のスクリューに絡まるなど、厄介者であったアカモクを重要な水産資源に押し上げることに成功した。また、先述したうみてらす豊前では、地域の女性が中心となって食堂の運営や直販施設の販売業務を行っており、これらの女性の力なしでは施設の運営ができないほど重要な役割を担っている。
- ・今後も引き続き、女性を始めとした多様な担い手による地域の活性化を図っていく。

### 3. 目標達成のための具体的な施策

#### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
曾根	流通機能強化	農山漁村	曾根	1	

- ・水産物流通機能の高度化を図るため、干満の差が大きい干潟域で、常時利用できる漁港施設の整備を実施する。

##### ② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
該当なし					

#### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

##### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名	事業種目
福岡県筑前	環境変化	環境 (特定)	沈設魚礁 (公共)
福岡県筑前	環境変化	環境 (特定)	魚類増殖場 (公共)
福岡県筑前	藻場・干潟	環境 (特定)	アワビ・トコブシ増殖場 (公共)
福岡県豊前	環境変化	環境 (特定)	魚類増殖場 (公共)
福岡県豊前	藻場・干潟	環境 (特定)	覆土 (干潟)
福岡県筑前海 (仮)	環境変化	環境 (特定)	沈設魚礁 (公共)
福岡県筑前海 (仮)	環境変化	環境 (特定)	魚類増殖場 (公共)
福岡県筑前海 (仮)	藻場・干潟	環境 (特定)	アワビ・トコブシ増殖場 (公共)
福岡県筑前海 (仮)	資源管理	環境 (特定)	その他海岸清掃等
福岡県豊前海 (仮)	環境変化	環境 (特定)	魚類増殖場 (公共)
福岡県豊前海 (仮)	藻場・干潟	環境 (特定)	覆土 (干潟)
福岡県豊前海 (仮)	資源管理	環境 (特定)	その他海岸清掃等

- ・沿岸に投石や増殖機能の高い増殖礁を設置することにより、メバル、カサゴなどの漁場として活用するだけでなく、水産生物の産卵場や稚魚育成場を造成。高水温や暖水性の食植生生物の増加により減衰した藻場等の代替地を造成する。
- ・藻場の造成・保全をハードと食害生物（ウニ類等）の駆除や母藻設置などのソフト対策を一体として取り組む。
- ・さらにクロアワビ、アカウニやキジハタ等の有用水産資源の種苗を放流することで、造成した藻場の一層の活用を図る。
- ・種苗生産施設を更新し、新規対象魚種としてキジハタ種苗の生産に取り組む。

- ・底質が悪化した漁場に覆砂をすることで漁場環境の改善を図る。

## ②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
福岡県本土	安全・安心	機能強化	宇島	2	
北九州市離島	安全・安心	機能強化	藍島	2	
宗像市本土	安全・安心	機能強化	神湊	2	
豊前	予防保全	機能保全	八屋	1	
行橋	予防保全	機能保全	蓑島	1	
			杵尾	1	
			稲童	1	
北九州市 本土	予防保全	機能保全	平松	1	
			柄杓田	2	
芦屋	予防保全	機能保全	柏原	1	

- ・拠点漁港において、被災時の水産業の早期回復を図るため、耐震耐津波の機能診断により安定性を満足しない外郭施設、係留施設について対策工事を実施する。
- ・漁港施設について、将来にわたり持続的に漁港機能を発揮し、安全な利用のため予防保全型の老朽化対策を実施する。
- ・航路及び泊地の土砂堆積により漁港の利用上、著しく支障をきたす漁港において浚渫を実施する。

## (3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

### ①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

## 4. 環境への配慮事項

水産基盤整備事業にかかる工事において、必要に応じ施工環境管理者を配置することを義務づけ、周辺海域の自然環境や水生生物の生息環境の保全に配慮した円滑な施工を確保している。

## 5. 水産物流通圏域図

# 福岡県 水産物流通圏域図

**北九州・豊前圏 生産力向上型**

圏域総陸揚量：4,123t  
 圏域総陸揚金額：28億円  
 漁港22港  
 〈養殖生産〉  
 圏域養殖総生産量：1,022t  
 圏域海面養殖業総産出額：8億円  
 主要養殖魚種：カキ類

**宗像圏域 流通拠点(一般)型**

流通拠点：鐘崎漁港(2)  
 圏域総陸揚量：2,780t  
 圏域総陸揚金額：22億円  
 漁港8港

**福岡圏域 流通拠点(一般)型**

流通拠点：博多漁港(特3)  
 圏域総陸揚量：67,620t  
 圏域総陸揚金額：80億円  
 漁港21港  
 〈養殖生産〉  
 圏域養殖総生産量：568t  
 圏域海面養殖業総産出額：5億円  
 主要養殖魚種：カキ類

**有明圏域 養殖・採貝藻型**

圏域総陸揚量：46,225t  
 圏域総陸揚金額：188億円  
 漁港14港  
 〈養殖生産〉  
 圏域養殖総生産量：42,307t  
 圏域海面養殖業総産出額：155億円  
 主要養殖魚種：ノリ類

出荷凡例詳細

50t未満	→
50~100t	→
100~500t	→
500~1000t	→
1000~5000t	→
5000t以上	→

- ：流通拠点漁港(うち流通・輸出拠点漁港(輸))
- ：生産拠点漁港(うち流通・輸出拠点漁港(輸))
- ：一般漁港
- ◆：産地市場を有する港湾(漁港からの搬入有の場合のみ)
- ★：漁業関係の利用がなされている港湾
- ☆：産地市場
- 漁業：主な漁業種 (主な漁業種が、(大)量(巻き網・底引き等)、(採)貝、(採)魚、(養)殖の場合は示す)
- ←：水産物集約(漁船陸揚げ)
- ←：水産物集約(陸送)
- ：加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内(域内)、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等をできる限り示す)

